

災害から地域を守る「自主防災隊」

大矢知地区の各町自主防災隊は、自分たちの地域は、自分たちで守るという自覚、連帯感に基づき、各町が自主的に結成した組織で災害による被害を予防し、軽減するために現在23町自主防災隊が活動を行っています。

また、大矢知地区自主防災協議会は、各町自主防災隊の連携を回り大矢知地区全体の自主防災体制を確立し、「災害に強いまちづくり」に資することを目的として設立されました。



大矢知地区自主防災組織と災害時の対応

大矢知地区自主防災協議会は、災害時に大矢知地区内の人的被害を最小限に止め、各町自主防災隊との相互調整、情報収集と救護などを行うために、各々災害対策本部を立ち上げます。

大 矢 知 地 区 自 主 防 災 組 織		
組 織 名	大矢知地区災害対策本部	各町災害対策本部
構 成 員	本 部 長：連合自治会長	本 部 長：自治会長
	副本部長：自主防災協議会長	副本部長：防災隊長
	部 員：自主防災協議会役員	部 員：自治会役員、防災隊員
配置基準	1. 地区に震度「5強」以上の地震が発生したとき	
	2. 地区に高齢者等避難、避難指示が発令されたとき	
	3. 地区に集中豪雨、その他異常な自然現象、又は特異的な事象により、副本部長が必要と認めたとき	
本 部 設置場所	大矢知地区市民センター内地域団体事務局	各町集会所等
職 務	避難所開設及び運営に関し、必要な指導・助言・支援	被害が発生した場合は、町内で協力
	避難所 → 情報収集・支援物資等 → 市災害対策本部大矢知地区分隊へ災害支援活動等の要請等	初期消火 → 救助 → 大矢知地区災害対策本部へ報告 避難行動要支援者声掛け・避難誘導・応援要請等

自主防災隊とは

1. 地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識に基づき自主的に結成する防災組織(ボランティア)「住民の隣保協同の精神に基づく自発的な防災組織」
2. 公権力はない(住民の避難については自主的な活動)
3. 自分たちの住む町内会等で活動するのが原則
 - ① 大規模災害時等に自分達の地域の火災、救助に対応
 - ② 簡単な消火、救助活動に従事
 - ③ 訓練・装備は初期対応中心
 - ④ 地域のリーダーのもとに活動



自主防災隊の活動

ア 平常時

- ・ 防災知識の普及 ・ 地域の災害危険箇所の把握
- ・ 防災訓練の実施 ・ 火気使用設備器具等の点検
- ・ 防災資機材の備蓄と整理・点検

イ 災害発生時

- ・ 災害情報の収集、住民への迅速な伝達
- ・ 出火防止と初期消火 ・ 避難誘導
- ・ 被災住民の救出・救護 ・ 給食・給水



(防災資機材の点検)



(災害時の助け合い)

大矢知地区自主防災協議会の平常の活動内容は、毎年年度末(3月)に「**地域防災活動報告**」を発行しておりますのでご覧ください

自主防災隊はなぜ必要か?

大地震などの大規模な災害が発生したら、行政は総力を挙げて対応しますが、次のような悪条件が重なり、十分な応急活動ができないことも予想されます。

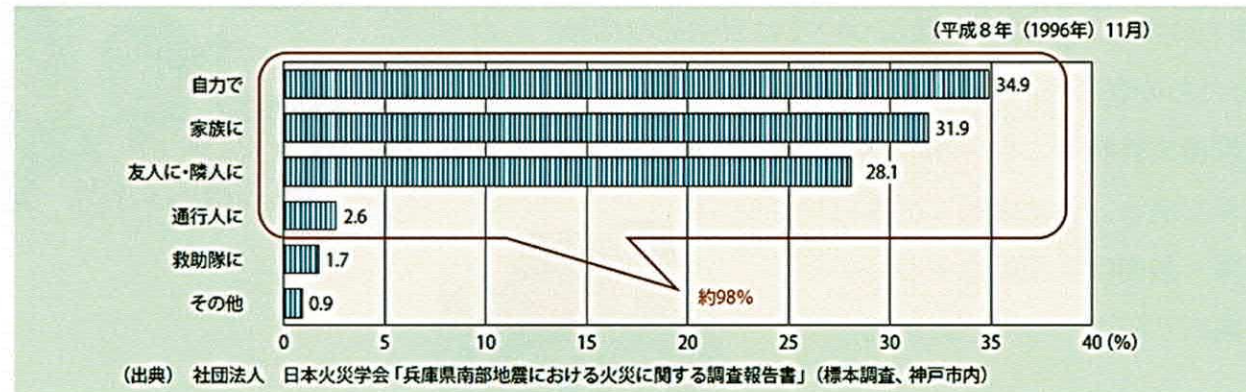
- ・ 電話が不通となり、被害状況等の情報収集が困難となる。
- ・ 道路や橋の損壊、建物の倒壊等により交通が著しく阻害される。
- ・ 防災機関が被害を受ける。
- ・ 同時に各地で火災が発生し、消防力が分散される。

このような状況において被害を軽減するためには、住民の自主的な防災活動が最も効果的であることは、阪神淡路大震災や新潟県中越



地震の例でも明らかです。また、個々ばらばらの活動よりも、組織(自主防災組織)として集約された活動の方がはるかに有効です。

地域住民がお互いに助け合い、活動することが被害の軽減につながります。阪神・淡路大震災では、倒壊した家の下敷きなどで、多くの犠牲者がでましたが、助けだされた人たちの大半が、近所の方々により救出されました。



自主防災組織の課題

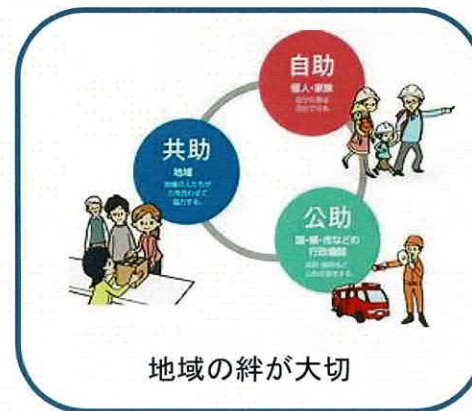
- ・高齢化による地域防災活動の担い手の不足
- ・女性のなり手が不在
- ・リーダーの負担が大きいためなり手が不在

○防災意識の不足

- ・防災は非日常的で非経済的
- ・大きな災害が発生していないため防災意識が希薄

※ 自主防災組織の活動は、地震を初めとして、噴火・台風・豪雨・豪雪等を要因とする自然災害の恐ろしさを実感し、昨今の被災状況を考えれば、防災活動の上で自助・共助・公助の連携を、減災に結び付けるしかないことを強く認識している今日この頃です。

そのような背景を踏まえ、自主防災組織が抱える課題について住民の方々と一緒に解決に向け取り組まなければいけないと思います。



突然起こる災害 そのときあなたは どうしますか

令和6年1月1日午後に発生した「能登半島地震」では、被害の全容がつかめないなか、倒壊した建物の下敷きになるなどして多くの犠牲者が出ています。また火災、津波、がけ崩れなども発生して断水や停電、道路の寸断など日常生活に必要なライフラインの復旧も見通せない状況です。

災害はいつ起こるか予想が付きません。「南海トラフ地震」も同じです。この地方も重大な災害が予想されている場所です。今回能登半島で起こったことは、自分の身にも起こるかもしれないと考え、今からできる対策や備えがとても大切です。

災害時こそ 地域のつながり 助け合いが必要です

今回の地震を受けて「自分にも何か役立つことができないか」と思った方、大勢いらっしゃったと思います。

各家庭で災害に備え、水や食料品など備蓄しておくこともとても大切なことですが、大矢知地区全体で『防災の必要性』や『災害時の支援の在り方』など防災意識を高めることがとても重要だと感じています。

～大きな災害が起こった今、特に女性目線で考えたい～

「防災」「減災」に向き合うこと

女性はより活動しやすく適応力があるのでは…

- ・実は防災への関心高い
- ・細やかな気配りができる
- ・日常やっていることが防災減災につながるが多いなどのことから

女性による身近な簡単に取り組める防災活動を広めていくことがより防災に繋がります。

メンバー募集

大矢知地区自主防災協議会では、「本部役員」を募集しております。

能登半島地震では、多くの犠牲者が出ました。自然災害に備えて、防災に興味のある方、いろんなアイデアをお持ちの方、各種資格をお持ちの方等、地域防災に参加して頂ける方を募集しております。

大矢知では女性の目線で考え、いざというときに助け合える女性の仲間も募集しております。

※ 四日市市にはすでに女性が中心で活動している団体が10団体あります。(令和5年2月現在)

＝連絡先＝ 大矢知地区地域団体事務局 電話 059-365-8085

令和6年能登半島地震により被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

一日も早く復興が出来ますようにお祈りいたします

